

地名と歩く



六十四 同心丁



間之町の路地と同心丁のあった付近(南方から北を望む)

「同心丁」は江戸時代、十八世紀の中頃から明治の初めにかけて、松山城下の家中屋敷町の一つとして取り立てられていた町名(丁名)で、今では町の面影も消えて、(株)山陽オカムラの工場になっている場所にあった消えた町名なのです。

松山城下町時代の「同心丁」は、道を隔てて西に荒神丁、甲賀丁、八幡丁が、北には間之町、柿木丁、向丁があった、下家中地に取り立てられた武家町でした。「松山城下絵図」や「松山城下屋敷図」(市図書館)によると中間之町から南に約一町(約一〇九メ)ほどの小路に沿って二列に同心(下級武士の身分呼称で与力の下で警衛にあたった)組長屋があったことがわかります。

この長屋は石川総慶時代(正徳元年)延享元年(一七一)〜四四)に、甲賀丁に一棟長屋七があげられますが、御先手(町を巡回し、火付や盗賊改めなどの警備の役をした武士)長屋であつたらしく、のちに間之町になっています。

もともとは、柿木丁にあった同心組長屋を移したものとされる長屋が並んでいたのです。

水谷時代には、間之町や「同心丁」も取り立てられておらず、また延享元年(一七四四)の「松山六か町、

差出帳」にも町名が見えていません。間之町が甲賀丁から別れて取り立てられたのは板倉氏時代になってからだといわれ、はっきりした時期はよくわかっていません。間之町の南に続いてあった「同心丁」もその頃できたものと思われ、「増補版高梁市史」によると明和五年(一七六八)一月に「同心丁」から出火した火事で、同心組長屋や柿木丁の御組(足軽、与力、旗組など)長屋、荒神丁などを全焼したことがわかっています。

幕末の様子が書かれている「昔夢一班」に次のように書かれています。「同心は奉行役の支配にて大組足軽より選抜せらる小頭(取り方や火消し部隊におかれた役)兩人、目付兩人、同心町として一廓をなして長屋を給はる、罪人召捕、下吟味を為す、手付(金でやとう)目あかしといふものを使役して犯人に注意す、奉行役出張の節は何れへも随行す、君公(藩主)御出のときは御先払を勤むる、弓鉄砲及柔術を専ら学ぶ、冬は畝織木綿、夏は麻紺色にて背に花菱の紋付たる羽織を着用し無袴にて竹杖を突き、赤総十手を帶す」とあり、当時の同心の様子がよくわかるのです。

「同心丁」は、板倉勝澄が伊勢亀山

から入国して間之町のすぐ南側の位置に下級武士の居住地として、また城下町の南東を固めるため配置した町で幕末の嘉永〜安政(一八四八〜六〇)頃には、東側の長屋に同心六人、西側に八人(昔夢一班)がいました。「増補版高梁市史」によると、慶応年間(二八六五〜六八)頃には世帯数十八が挙げられています。また、「昔夢一班」に「徒刑所と云う懲戒場、同心町にあり、賭博を為すもの又は親不孝心得方不宜ものを懲戒する處にて、薄鬢に剃落し眉を剃、辨柄染の袖なし、背に徒の字を大書したるものを着せ、夫役(労働)に召遣ふ也、今の懲役人なり」と書いています。

間之町から天保一〇年(一八三九)三月に出火して城下町最大の大火となつて、間之町付近は全焼し武家屋敷、寺院、そして町屋三四〇が類焼した(「松山御城主暦代記」といわれ、その後間之町は復興して、東間之町、中間之町、西間之町に別れ、その中間之町のすぐ南に続く町が同心組の長屋のあった「同心丁」だったのです。今では、この歴史地名も中間之町や東間之町から続く路地の一部のみが残っていて、わずかに面影を留めるだけになっています。

(文・松前俊洋さん)



4年間の学生生活を振り返って

吉備国際大学社会福祉学部

社会福祉学科4年 中村友美さん(山口県出身)



私は一人暮らしをしたいという単純な憧れ、また岡山県は福祉が発達している地ということからこの大学に進学しましたが、たくさんの経験や葛藤を経て、今はここに来て良かったと思っています。多岐に渡り充実していた学生生活を振り返り、主なものを4つ挙げてみます。

まず、「一人でもへっちゃら」と思っていた初めての一人暮らしでは、アルバイトをしながらの日々の生活の中で、家族や友達といった自分の周りにいる人たちの存在を強く感じるようになりました。本当の意味で周りの人に感謝し、また人や自分を大切にすることを理解し始めたのではないかと思います。

次に実習やボランティア活動です。社会福祉学科では社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験資格の取得が可能です。私はその取得に向け、2つの現場実習や1年次から続けたノートテイク、子どもや高齢者の施設でのボランティアなどに取り組みました。多くの「生の現場」を経験し、福祉の現場では自己覚知や、自分や相手、周囲の感覚をないがしろにしないことがいかに大切であるかを学びました。

3つ目はサークル活動です。K.J.Jアミューズング・プラス・カンパニー(吹奏楽部)と、ソフトテニスサークルの2つに所属しました。K.J.Jでは学園内の式典での演奏、学外でのボランティア演奏、また副部長を務めるなど、この大学ならではの経験をすることができ、悩んだり葛藤したりしながらも、一緒に考え分かち合える大切な仲間と出会えました。

最後に学友会文化部会の活動です。3年次のみでの所属でしたが、サークル活動の運営以外に、学生課職員の皆さんなどにお世話になりながら連絡調整の大切さなどを学びました。何か1つのことを動かす大変さばかりでなく、楽しさも知りました。

4月からは山口県に帰り福祉の仕事に携わりますが、高粱でのこれらの経験を活かし、周りの皆さんに感謝しながら一社会人として頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

編集後記

今年度最後の「広報たかはし」をお届けします。分かりやすく、皆さんに親しんでいただけるような紙面づくりを心がけようと思いつきながら、振り返ってみると、毎月締め切りまでに原稿を仕上げるのに精いっぱい、一方的に行政情報をお知らせするだけになってしまっていたのではと反省しています。気持ちを引き締め、分かりやすい紙面づくりに取り組んでいきたいと思っています。

また、今月号でお知らせしたように、こ

れまで文字情報で提供してきた「行政チャンネル」の内容を一新し、4月から映像や音声も交え行政情報を発信していくことになりました。しばらくは試行錯誤での制作が続くかもしれませんが、皆さんに分かりやすく情報をお伝えできるよう頑張っていきたいと思っています。

4月からも「広報たかはし」、また「行政チャンネル」をよろしくお願ひします。

(Y.M)

まちの伝言板

ひな 町家通りの雛まつり



本町活性化委員会
事務局長 武南 俊明さん(60)

江戸時代の商人町の情緒を残す本町地区で、今年4回目となる「備中たかはし城下町 町家通りの雛まつり」(本町活性化委員会主催)が行われます。

江戸時代後期から現代までの雛人形や手づくり雛、季節の花などが家々に飾られます。

「風情ある本町通りの町並みに70組もの雛人形が彩りを添えます。ぜひおこしください」と武南さん。

- ▽日時：4月3日(土)・4日(日) 午前10時～午後4時
 - ▽会場：本町(町家通り)、紺屋川周辺
 - ▽内容：雛飾り(雛人形70組、手づくりの雛飾り多数)、子供雛めぐり(先着50人)、茶席(有料)、町並みバザール(有料)、路地遊び(メニコ・コマ回しなど)、芸能(演奏、紙芝居、まちかどコンサート)、おもてなしコーナー(甘酒、お茶、杣つき餅)、人形供養(有料・喜峯前・3日午後1時～午後4時)
 - 問い合わせ 本町活性化委員会事務局長・武南俊明さん(TEL) 2020)
- 詳細は次のとおり。